



HISTOFINE

\*\*2013年 4月改訂(第3版)

\*2006年 4月改訂(第2版)

2005年 7月作成

体外診断用医薬品

\*クラスⅢ免疫組織学検査用シリーズ  
ヒストファイン SAB-PO(M)キット  
グリア線維性酸性プロテイン(GFAP)

第一抗体  
抗グリア線維性酸性プロテインモノクローナル抗体

(動物種：マウス)

包装：50テスト(6mL)

Code：422261

製造販売元

株式会社ニチレイバイオサイエンス

〒104-8402

東京都中央区築地6-19-20

TEL. 03(3248)2208 FAX. 03(3248)2243

- \*■本品は、クラスⅢ免疫組織学検査用シリーズ ヒストファイン SAB-PO(M)キットの構成試薬 第一抗体である。
- \*■本品を使用する際は、ヒストファイン SAB-PO(M)キットの添付文書をよく読んで使用すること。

■特異性および抗原分布：ヒトグリア線維性酸性プロテイン(GFAP)と反応する。一部のアストロサイトおよび中枢神経の上皮細胞と反応するが、オリゴデンドロサイトやニューロンとは反応しない。また、他の中間フィラメントタンパクとは反応しない。

■クローン名：GA5

■抗体のサブクラス：IgG1、 $\kappa$

■免疫原：ブタ脊髄から精製したグリア線維性プロテイン。

■製法：ハイブリドーマの培養上清より得ている。

#### 1. 内容

第一抗体・・・抗グリア線維性酸性プロテインモノクローナル抗体(動物種：マウス)。

液状。

ウシ血清アルブミン(BSA)と、0.1%アジ化ナトリウムを含むリン酸緩衝生理食塩水(PBS)にて、即時使用可能な抗体濃度に希釈済み。

1バイアル中に6mLを含む。

#### \*\*2. 使用方法

パラフィン包埋切片の免疫組織化学および免疫細胞化学染色に使用できる第一抗体である。

スライド上の組織切片が完全に覆われるように第一抗体を2滴(100 $\mu$ L)滴下し、常温(15-25 $^{\circ}$ C)で30分~1時間インキュベートする。\*\*

また、組織の固定条件等により4 $^{\circ}$ C、一晚のインキュベートで良好な染色が得られる場合もある。

#### 3. 貯法

2-8 $^{\circ}$ C保存。

#### 4. 使用上又は取扱上の注意

ヒト由来の検体は、取扱者に感染をひき起こす危険性がある。従って、適切な取扱および廃棄法を用いるとともに、この免疫組織(細胞)化学染色法を施行するに際し、関連技術および操作法に充分習熟しておかなければならない。

#### 5. 主要文献

- (1) DeArmond, S. J. et al: Pathol Res Proct. 168: 374, 1980
- (2) Velasco, M. E. et al: Cancer 45: 484, 1980
- (3) Bonnin, J. M. et al: Acta Neuropathol 62: 185, 1984
- (4) Royds et al: Acta Neuropathol 70: 320, 1986
- (5) Debus et al: Differentiation 25: 193, 1983
- (6) Coakham et al: Prog Exp Tumor Res 29: 57, 1985